

令和元年 11 月 12 日  
 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構  
 大洗研究所 環境保全部 環境技術課

## 補正申請に向けた安全解析書の点検結果

本補正に係る「別紙記載事項の新旧対照表」を以下に示す。

別紙記載事項の新旧対照表（その1）

変更箇所を   で示す。

記載事項	ページ 番 号	変更箇所	変更内容	
			変更承認申請書	変更後
目次	目-15	1 行目	「(口) - 第 A.17 表 一般の試験 条件下における設計温度」	「(口) - 第 A.17 表 一般の試験 条件下における温度」に変更
		13 行目	「(口) - 第 A.28 表 特別の試験 条件下における設計温度」	「(口) - 第 A.28 表 特別の試験 条件下における温度」に変更

別紙記載事項の新旧対照表（その2）

変更箇所を [ ] で示す。

記載事項	ページ 番号	変更箇所	変更内容	
			変更承認申請書	変更後
(ロ) 章 A 構造解析	(ロ)-A-28	(ロ)-第 A.10 表	—	「(ロ)-第 A.10 表」を添付 1 のとおり変更
	(ロ)-A-29	(ロ)-第 A.11 表	—	「(ロ)-第 A.11 表」を添付 2 のとおり変更
	(ロ)-A-30	(ロ)-第 A.12 表	—	「(ロ)-第 A.12 表」を添付 3 のとおり変更
	(ロ)-A-31	14 行目～ 15 行目	「(ロ)章 B.5.3 輸送物温度で示すように特別の試験条件下においても常用使用温度 [ ] °C～ [ ] °C) を逸脱することはない。」	「(ロ)章 B.5.3 輸送物温度で示すように特別の試験条件下においても常用使用温度 [ ] °C～ [ ] °C) を逸脱することはない。」に変更
	(ロ)-A-33	19 行目	「O リングの常用使用温度は [ ] °C から [ ] °C であるため、低温での使用には問題はない。」	「O リングの常用使用温度は [ ] °C から [ ] °C であるため、低温での使用には問題はない。」に変更
	(ロ)-A-38	4 行目～ 6 行目	「振動を模擬した試験を実施した <sup>(14)</sup> 。(ロ)-第 A.3 図に示すとおりナイロンスリングで供試体 4 を振動試験装置に拘束し、垂直方向へ Safeguards Transporter (SGT) を模擬した振動 <sup>(15)</sup> を加えた後にランダム振動試験を実施した。」	「振動を模擬した試験を実施した <sup>(15)</sup> 。(ロ)-第 A.3 図に示すとおりナイロンスリングで供試体 4 を振動試験装置に拘束し、垂直方向へ Safeguards Transporter (SGT) を模擬した振動 <sup>(16)</sup> を加えた後にランダム振動試験を実施した。」に変更
	(ロ)-A-40	16 行目	「(1) 設計温度」	「(1) 温度」に変更
		19 行目～ 20 行目	「一般の試験条件下における設計温度は」	「一般の試験条件下における温度は」に変更
		22 行目	「(2) 設計圧力」	「(2) 圧力」に変更
		24 行目	「一般の試験条件下における設計圧力は保守的に」	「一般の試験条件下における圧力は保守的に」に変更
(ロ)-A-41	(ロ)-第 A.17 表 の表題	「(ロ)-第 A.17 表 一般の試験条件下における設計温度」	「(ロ)-第 A.17 表 一般の試験条件下における温度」に変更	
	(ロ)-第 A.17 表	「設計温度」	「温度」に変更	

別紙記載事項の新旧対照表（その3）

変更箇所を [ ] で示す。

記載事項	ページ 番号	変更箇所	変更内容	
			変更承認申請書	変更後
(ロ) 章 A 構造解析 (つづき)	(ロ)-A-43	19 行目～ 20 行目	「最大引張強さの約 1/2 と考えられ <sup>(16)</sup> 、」	「最大引張強さの約 1/2 と考えられ <sup>(17)</sup> 、」に変更
	(ロ)-A-47	2 行目	「5 基の供試体を用いて実施した <sup>(17)</sup> 。」	「5 基の供試体を用いて実施した <sup>(18)</sup> 。」に変更
		7 行目	「中性子吸収材の違いが問題になることはない <sup>(18)</sup> 。」	「中性子吸収材の違いが問題になることはない <sup>(19)</sup> 。」に変更
		15 行目	「落下試験台で実施した <sup>(19)</sup> 。」	「落下試験台で実施した <sup>(20)</sup> 。」に変更
		23 行目	「ガス燃焼炉で実施した <sup>(17)</sup> 。」	「ガス燃焼炉で実施した <sup>(18)</sup> 。」に変更
	(ロ)-A-101	(ロ)-第 A.27 表 の表題	「(ロ)-第 A.27 表 耐火試験における供試体内部の最高温度 <sup>(17)</sup> 」	「(ロ)-第 A.27 表 耐火試験における供試体内部の最高温度 <sup>(18)</sup> 」に変更
	(ロ)-A-102	4 行目	「(1) 設計温度」	「(1) 温度」に変更
		6 行目～ 8 行目	「(ロ)-第 A.28 表に示すように、本項においては収納容器表面及び O リング近傍の設計温度を保守的に 167.22 °C (332.99 °F) として評価する。」	「本項においては(ロ)-第 A.28 表に示すようにに収納容器表面及び O リング近傍の温度をそれぞれ保守的に 167.22 °C (332.99 °F) 及び 140.6 °C (285 °F) として評価する。」に変更
		(ロ)-第 A.28 表	「(ロ)-第 A.28 表 特別の試験条件下における設計温度」	「(ロ)-第 A.28 表 特別の試験条件下における温度」に変更し、記載を添付 4 のとおり変更
		15 行目	「(2) 設計圧力」	「(2) 圧力」に変更
17 行目		「本項においては設計圧力を保守的に」	「本項においては圧力を保守的に」に変更	



別紙記載事項の新旧対照表（その5）

変更箇所を [ ] で示す。

記載事項	ページ 番 号	変更箇所	変更内容	
			変更承認申請書	変更後
(ロ) 章 A 構造解析 (つづき)	(㊦)-A-118 (つづき)	22 行目～ 30 行目	<p>「(14) [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ]」</p> <p>(15) MIL-STD-810F, Test Method Standard for Environmental Engineering Considerations and Laboratory Tests, Jan. 1, 2000.</p> <p>(16) Design Guidelines for the Selection and Use of Stainless Steel, American Iron and Steel Institute, Washington, D.C., 1977. 」</p>	<p>「(15) [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ]」</p> <p>(16) MIL-STD-810F, Test Method Standard for Environmental Engineering Considerations and Laboratory Tests, Jan. 1, 2000.</p> <p>(17) Design Guidelines for the Selection and Use of Stainless Steel, American Iron and Steel Institute, Washington, D.C., 1977. 」に変更</p>
	(㊦)-A-119	1 行目～ 3 行目	<p>「(17) [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ]」</p>	<p>「(18) [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ]」に変更</p>



別紙記載事項の新旧対照表（その7）

変更箇所を            で示す。

記載事項	ページ 番 号	変更箇所	変更内容	
			変更承認申請書	変更後
(ロ) 章C 密封解析	(ロ)-C-1	20行目	「(3) <span style="background-color: #cccccc;">設計</span> 圧力及び <span style="background-color: #cccccc;">設計</span> 温度」	「(3) 圧力及び温度」に変更
		(ロ)-第 C.1 表	—	「 <span style="background-color: #cccccc;">(ロ)-第 C.1 表</span> 」を添付5のとおり変更
	(ロ)-C-15	7行目	「 <span style="background-color: #cccccc;">設計</span> 圧力で実施している。」	「圧力で実施している。」に変更